

磯崎新氏 追悼企画

磯崎新と 祝祭の広場

大分市
お部屋ラボ
祝祭の広場

2023

12/17(日)

高山明
ダースレイダー
荏開津広
John
Aihara Francisco Yoshikazu
snipe1
ケンチンミン
Champagneman
Skaai
HUNGER(GAGLE)
ポチョムキン(餓鬼レンジャー)
BANDIERA
FOUNTAIN
PLAYFUL STORE
ナリトライダー

TALK, GRAFFITI, LIVE, DJ, DANCE, SKATEBOARD

主催:大分市

磯崎新と祝祭の広場

2023/12/17(日) 11:00～ 大分市 お部屋ラボ 祝祭の広場 入場無料

昨年末(2022年12月28日)、大分市出身の世界的建築家である磯崎新氏(1931-2022)が逝去されました。磯崎氏は生前、建築のみならず、文化、芸術など多彩な活動で圧倒的な足跡を遺されてきました。そこで今回、磯崎新氏が総合アドバイザーを務め、さらに名付け親でもある「祝祭の広場」で追悼の意を込めたイベントを開催いたします。本イベントは、3年にわたって祝祭の広場で行われた、大分市主催の高山明氏/PortB「ワグナー・プロジェクト」に焦点を当て、これからの祝祭の広場の多様性を模索し、利活用についてのあり方を具体的に提示、都市における新しい文化、芸術の創造を図るイベントです。「ワグナー・プロジェクト」は、演劇ユニットPortB主宰高山明氏によるヒップホップの学校です。DJ、ラップ、ブレイクダンス、グラフィティ、スケートボードのレクチャーやライブなどが、広場で同時多発的に行われます。なぜ演劇ユニットがヒップホップなのか? ドイツの楽劇王ワグナーの代表的な楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」がストリートの歌合戦をモチーフにしていること。さらに、DJ、ラップ、ブレイクダンス、グラフィティと、音楽、言葉、身体、イメージと4つの要素からなるヒップホップはストリートから生まれた総合芸術であり、演劇的視点から見て「街頭のオペラ」と呼ばれるヒップホップは巨大な可能性の塊であるから(高山明氏の著書「テatron」、河出書房新社より)です。ストリートカルチャーを通じて、楽しみ、学び、出会うワグナー・プロジェクト×祝祭の広場は、ヒップホップに興味を持つすべての人々に開かれたワークショップ、コンサート、展示などからなる、大分市街中心部を活性化させる新しい祝祭の形であると考えます。磯崎氏は、日本における公共空間のあり方だけではなく、より自発的で多様な関わり方を可能にすることにも関心を寄せていたといえます。本イベントは、広場としてのあり方だけでなく、ストリートカルチャーのさまざまなコンテンツを拡散させ「広場の多様性」を創造すること、そして、市民と外から多くの人が集える都市の「祝祭」の演出ができることで、磯崎新氏に向けた追悼イベントといたします。

主催:大分市 会場:お部屋ラボ祝祭の広場(大分市府内町 1-1-1) 問い合わせ:大分市都市計画部まちなみ企画課 TEL 097-585-6004 MAIL matikikaku@city.oita.jp

[SPECIAL GUEST]
高山明

[TALK]
ダースレイダー
磯崎新の明日を産むための祝祭の広場
荻開津広
廃墟の革命-磯崎さんとストリートカルチャーは相思相愛だったか

John
ラッパー / アーティストであるということ
Aihara Francisco Yoshikazu
文化としてのスケートボードと大分ローカル新作スケートビデオ発表

[GRAFFITI]
snipe1
磯崎新さんへのメッセージをどなたでも書き込めるリーガルウォールを設置

[LIVE]
ケンチンミン
Champagneman
Skaai
HUNGER (GAGLE)
ポチョムキン(餓鬼レンジャー)

[DANCE]
BPU STREET DANCE
EAST WAVE HIPHOP DANCE SCHOOL
GLITTER DANCE SCHOOL
NATIVE DANCE VILLAGE
STUDIO OTONOVA

[SKATEBOARD]
大分スケートボード協会

[APPAREL]
BANDIERA
FOUNTAIN
PLAYFUL STORE

COORDINATOR
ナリトライダー

建築家。都市デザイナー。1931年大分県大分市生まれ。1954年東京大学工学部建築学科卒業。丹下健三に師事し、博士課程を修了。1963年磯崎新アトリエを設立。半世紀以上にわたり、国際的な建築家として活動する。また、世界各地の建築展や美術展にてキュレーションやコンペティションの審査を務める。ハーバード大学、コロンビア大学などで客員教授を歴任。建築の枠を超えて、美術、デザイン、思想、音楽、演劇、政治、メディアなどを横断するプロジェクトを組み立て、多くの理論的著作も発表する。主な建築作品に、大分県立大分図書館(現アートプラザ)(大分)、群馬県立近代美術館(群馬)、つくばセンタービル(茨城)、水戸芸術館(茨城)、奈良町現代美術館(岡山)、山口情報芸術センター(山口)、ザ・パラディウム(ニューヨーク)、ロサンゼルス現代美術館(ロサンゼルス)、チーム・ディズニー・ビルディング(オランダ)、パラウ・サン・ジョルディ(バルセロナ・オリンピック・スタジアム)、ラ・コルーニャ人間科学館(ラ・コルーニャ)、深圳文化センター(深圳)、中央美術学院美術館(北京)、カタール国立コンベンション・センター(ドーハ)など多数。

主な著作に、『空間へ』『建築の解体』『手法』『見立ての手法』『造物主義論』『神の似姿』(鹿島出版会)、『Anywhere』(編、NTT出版)、『磯崎新建築論集全8巻』(岩波書店)、『偶有性操縦法』『瓦礫の未来』(青土社)など多数。

2017年、大分市中心市街地祝祭広場整備事業総合アドバイザー就任。2019年、建築界のノーベル賞と呼ばれるブリッッカー賞を受賞。同年、大分市名誉市民に推挙。2022年12月死去。

磯崎新 (1931-2022)

